



発行 小野友五郎を伝えてゆく会
 事務局 〒309-1626
 茨城県笠間市下市毛222の5
 TEL 0296-72-5104 FAX 0296-72-5115
 H P https://tomogorou.com
 Eメール tomo56@eco.ocn.ne.jp

笠間の友五郎から
日本の友五郎へ

- ◆ 友五郎と加藤桜老 ◆ 小野友五郎新聞コンクール
- ◆ 小野友五郎伝
- ◆ 友五郎の足跡を訪ねて 小野家と小守家
- ◆ 会員の声 ◆ 編集後記

小野友五郎の顕彰碑 かさま歴史交流館井筒屋に

小野友五郎コーナーが設けられている笠間市笠間のかさま歴史交流館井筒屋前に友五郎の顕彰碑がお目見えしました。笠間ライオンズクラブ(鈴木要一会長)が創立50周年を記念して制作し、笠間市に寄贈しました。

1月25日に山口伸樹市長を招いて除幕式が行われ、2月の50周年記念式典で市側に目録が手渡されました。除幕式で山口市長は「顕彰碑が設けられ、笠間を代表する偉人の一人、小野友五郎がさらに広く知られていくことになる」と期待を込めました。

顕彰碑は小野友五郎を伝えてゆく会の協力を得て制作され、稲田石を土台に友五郎の顔をかたどったブロンズ製のレリーフと友五郎の足跡が記されています。高さ2メートルほどあり、井筒屋の玄関口で笠間の偉人の存在をアピールしていくことになります。

■上野勉さんが制作■

レリーフは、笠間在住で伝えてゆく会の会員でもある彫刻家の上野勉さんが制作しました。上野さんは、日本芸術院会員である彫刻家の能島征二氏(水戸市)に師事し、腕を磨いてきました。制作依頼を受け、様々な準備を重ね、作り上げました。「幕末、明治と日本の激動の時代を強く生きた郷土笠間の偉人小野友五郎の本を何度も読み、友五郎の内面がレリーフから伝わってくるように思いを込めて制作しました」と話していました。

笠間ライオンズクラブが寄贈



1月25日に行われた除幕式—かさま歴史交流館井筒屋

**茨城の先人展
友五郎も紹介**
 4月から県立歴史館
 県立歴史館(水戸市緑町)は四月二七日から六月二三日まで、開館50周年企画展「歴史を紡いだ茨城の先人」(仮)を開催します。郷土が生んだ小野友五郎、長久保赤水、菊池謙二郎、岩上二郎の四氏の功績や足跡を紹介いたします。

友五郎と加藤桜老

南 秀利

小野友五郎は若い頃の和算の学習が認められ、嘉永五年（一八五二）に幕府の天文方に出仕することになり、天体観測や暦計算、西洋の数学を学びました。オランダ語もマスターしていたので、西洋の航海術書の翻訳も担当しました。

安政二年（一八五五）八月、幕府から長崎海軍伝習所への勤務を命じられました。ここでの学習は航海術、造船術、数学、物理学、



天文学などの学問と実地訓練でした。一年半の修行を終えた友五郎は、オランダから購入した観光丸を操縦して、



加藤桜老像＝笠間小学校

江戸に戻りました。長崎伝習所の成績が認められ、軍艦操練所の教官に任命されました。

万延元年（一八六〇）正月、日米修好通商条約の批准のため使節団が派遣され、友五郎も咸臨丸で太平洋を渡りました。友五郎は筆頭操縦方（航海長）として活躍しました。咸臨丸に同乗していたアメリカの元船長ブルックは友五郎の仕事ぶりに敬意を表しています。

無事帰国した咸臨丸に興味を抱いた將軍徳川家茂は、友五郎の活躍を耳にし、江戸城に友五郎を招き、航海の様子を聞き、褒美を与

量、調査を行いました。また蒸気軍艦千代田艦を建造しました。

友五郎が幕臣となり着々と功績を残し昇進していた頃、笠間藩の尊王の儒学者加藤桜老が長州藩校明倫館の教授に招聘されました。既に、高杉晋作が桜老の私塾十三山書楼を訪ねていて、国防、海防について論議をしていました。

長州行きを承認されて桜老は、文久二年暮れに江戸に出て準備をしました。その際、友五郎を何度も訪ね、泊まることもありました。桜老の日記にはその様子が記されています。文久三年正月は元旦から四日まで友五郎と行動を共に

えました。友五郎の航海術や数学の能力は高く評価され、文久元年（一八六一）に旗本に採用されました。同十

月には小笠原群島の測

し、友五郎宅に宿泊し、毎晩酒を飲み、横笛などを楽しんでいます。一月二五日に江戸を發つて長州へ旅立ちました。二月一日京都三条大橋に着き、御所に向かって伏拝して「過三条大橋有感」の漢詩を詠みました。

京都の宿は長州藩の定宿の池田屋で、桜老はここに六カ月滞在、尊攘派の公家や諸国の志士と交流しています。「文久三年八月十八日の政変」や七卿の都落ちを目の当たりにしました。

一〇月初めに山口に入り、明倫館教授としての仕事に就きました。慶応二年（一八六六）六月末から四日間、坂本龍馬が桜老を訪ねて来て意見を交わしています。

小野友五郎は幕府の旗本として和親外交に携わり、桜老は水戸学の尊王攘夷論者でしたが、立場の違いを越えて親交を結んでいます。桜老は江戸に出ると友五郎宅を定宿のようにする親しさで、友五郎を頼りにしていたのです。

（笠間市文化財保護審議会会長、当会顧問）

力作ズラリ！347点 笠間市内の児童が応募

笠間市内の児童を対象に昨秋、第2回小野友五郎新聞コンクールを開催し、笠間の菊まつりに合わせ10月21日から約1か月間、かま歴史交流館井筒屋で、入賞作品を展示し、多くの人に見ていただ

第2回小野友五郎新聞コンクール



大賞 笠間市立義務教育学校 6年 藤原 優太

きました。

昨年が続いての開催で、小野友五郎について調べ新聞にまとめる活動を通じて、郷土が生んだ偉人を知るとともに、郷土を愛し、郷土のために貢献しようという子供たちの志を高めることが目的です。

市内の小学校、義務教育学校から347点(市内児童の約1割)

最優秀賞 藤原 優太さん



いんたびゅー

◎小野友五郎を調べ、工夫したことは・・・
まず、かま歴史交流館井筒屋に行き、小野友五郎さんについて調べました。そこで、変化が多い大変な時代に、たくさんの方を行った偉人だと分かりました。友五郎さんが行ったことを書くのではなくて、自分が過去にタイムスリップしてインタビューをしてきたように書くことにしました

◎書きながら考えたことは・・・
小野友五郎さんのように、新しいことに出会ったときに、いつも学び続ける大切さと、人や国のためにそれを生かすことです

◎受賞の喜びは・・・
まさか賞を取れるとは思っていませんでした。とても嬉しかったです。ありがとうございます

に上る多数の応募がありました。その後、審査会を開き、優秀賞10点、優良賞27点を選び、入賞者に賞状と記念品を贈りました。

展示会の来場者名簿には729人もの記載があり、多くの感想が寄せられました。

小野友五郎を伝えてゆく会会長 藤原優太 小なみ学園義務教育学校6年▽笠間市長賞 山口雛愛 友部二小6年▽笠間稲荷神社

宮司賞 上野新 北川根小5年▽
鳴海風賞 石井つづき 笠間小6年▽
笠間市教育長賞 堀真采 北川根小5年▽
ネットトヨタ茨城会長賞 吉井愛里 笠間小6年▽
ザコーヒー会長賞 小澤伶治 友部二小6年▽
ウィンド・パワー社 長賞 篠崎咲良 岩間二小6年▽
笠間観光協会会長賞 塩畑夢唯 同小6年▽
笠間ライオンズクラブ 会長賞 塩畑斗喜 同小2年

小野友五郎伝 2

杉田 捷機



幕府天文方へ出仕

一八五二(嘉永五)年、友五郎は幕府の天文方足立左内役所へ出仕を命じられます。天文方というのは暦作御用と言われ、暦の正確さを調べたり、冬至、夏至、日食、月食などの天体観測を行ったりしていました。ここでは既に三角法や三角関数、対数などの西洋数学が使われており、この天文方へは優秀な人材しか採用されませんでした。

その翌年の七月八日夕刻、米国インド艦隊司令長官ペリーが率いる巨大な蒸気艦四隻が日本の開国を迫り、浦賀にいきなりを下ろします。当時、日本で最大の船は千石船で、その約二〇倍近い黒船を見た人々はさぞ驚いたことと思われれます。黒船と呼ばれていた

ので鉄製の船と思われませんが、全艦木造船でタールを塗っていたので黒い鉄船に見えたのです。

鎖国時代の外国船は、全て長崎に入港することになつていたので、長崎に回るように命じましたが、ペリーは拒否して江戸湾深く

進入しました。最終的には和親条約を結ぶ親書を久里浜で受け取り、来年、再度来ると言うことで



友五郎愛用の天球儀 (笠間稲荷神社蔵)

江戸を後にして琉球の那覇に戻っています。

和親条約の主な内容は寄港した船への水や食料、まきの補給などが記されていました。「泰平の眠りを覚ます蒸気船たった四杯で夜も眠れず」と当時の江戸町民の驚嘆ぶりがうかがえます。

この頃、友五郎は天文方に通う

傍ら江川垣庵(太郎左衛門)から砲術や砲台の建設なども学んできました。幕府も海軍の必要性を感じ、長崎奉行水野忠徳にオランダからの軍艦購入と幕府海軍の設立

に関する意見書を提出させ、幕府はこれをすぐに承認します。友五郎はオランダの書籍を翻訳し、渡

海新編という航海術書四巻を幕府に献上しています。

長崎海軍伝習所へ

一八五四(嘉永七)年二月二十七日、八隻の軍艦を率いてペリーが再度来航し三月三十一日、日米和親条約が調印されました。内容は下田・箱館の開港、米国船への水や薪、食料の供給と必要な物資の購入、米国船の漂流民の救助、外交官の駐在などでした。

一八五五年(安政二年)八月、友五郎はできたばかりの長崎海軍伝習所に派遣を命じられ、第一期生三九人の一人として海軍伝習所で学ぶことになりました。笠間藩主は、この榮譽を大変喜び、友五郎を給人席に昇進させました。ここで友五郎は西洋数学、航海術、造船術、物理学、天文学、砲術、陸戦術などの実戦教育も受けています。日本人で初めて微分・積分学も学びました。友五郎は珠算が得意で、オランダ人の筆算と競争した時は、算盤の速さと正確さにオランダ人は舌を巻いたそうです。(つづく)

小野家と小守家

井坂 幸雄

笠間藩の下級藩士だった小守庫七宗次の四男として生まれた友五郎は、一七歳の時に同じ笠間藩士の小野柳五郎の養子となり小野家に入りました。二〇歳で家督を相続、小野家を継ぎました。残念ながら二度の結婚を経ても子宝には恵まれず、自分が生まれた小守家から相次いで養子をもらい、小野



友五郎の両親の墓碑 玄勝院

友五郎の足跡を訪ねて

家の存続を図りました。友五郎以降の小野家の家系は小守家によって守られてきたとも言えます。

笠間城があった佐白山の麓に玄勝院という曹洞宗の寺があります。藩士たちの墓も多く、小守家の菩提寺でもあります。小守家に関わる墓は三つあり、そのうちの一つ、本堂裏手にある小守家累代の墓は、江戸時代からの小守家当主らが眠る本家筋の墓です。累代の墓の墓碑の隣に大きな古い石碑が建っています。二人の戒名が記されており、一人は友五郎の父庫七、もう一人は妻登和さんと思われまます。友五郎の両親の墓碑です。登和さんは同じく笠間藩士の飯田家の出で、その実家には友五郎の位牌があります。かつては遠方から墓参りに行くのは大変だったため、身近な人が出向かなくても手を合わせられるよう位牌分けが

よく行われていたと言います、友五郎が亡くなった後、母親の実家にも位牌が置かれたと考えられます。

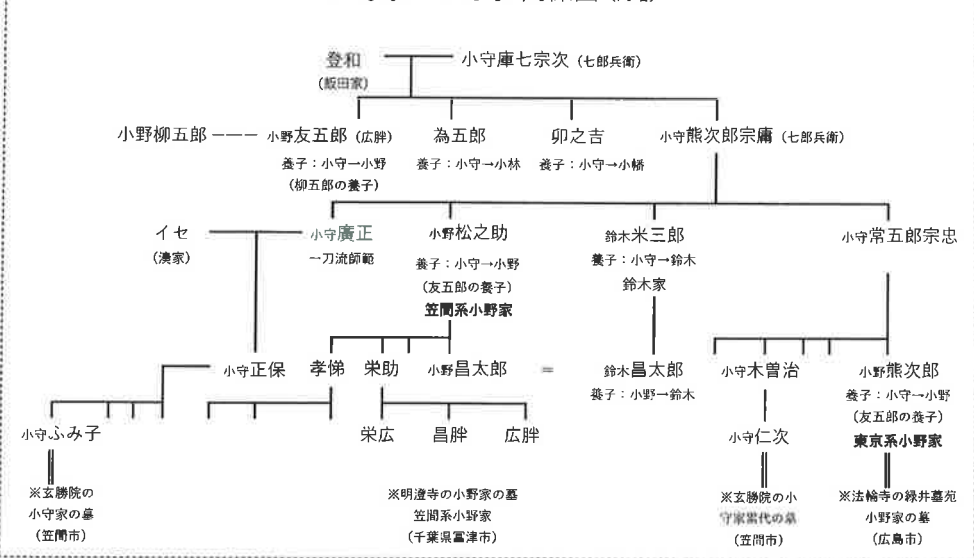
本堂裏手の奥にも小守家の墓があります。友五郎の長兄熊次郎宗庸(七郎兵衛)の息子の一人小守廣正氏とその子孫の墓となります。友五郎の甥にあたる廣正氏は一

刀流の剣豪として名を馳せ、笠間市石井に道場を構え、多くの門下生を育てました。友五郎とも交流があり、晩年を迎えた友五郎に送った手紙が広島県立文書館に残されています。墓碑には歴史学者で茨城大教授などを務めた瀬谷義彦氏が碑文を記しています。

子供がいなかった友五郎は笠間では長兄の三男松之助を、東京では長兄の孫熊次郎をそれぞれ養子に迎え、小

野家を継がせました。それぞれの小野家の墓は子孫の代に移され、現在は広島市と千葉県富津市にあります。

小守家・小野家 関係図 (簡略)



会員の声



日本の近代化に尽くす

山口正雄（銚田市在住）

「頼むよ」の一言で引き受けた原稿依頼、ほろ酔い気分で、杉田さんから頂いた友五郎の本を開き、鳴海風氏の講演（笠間塾）の記憶を辿りました。友五郎が生まれた一八一七年はイギリス船が浦賀に来航した年です。その頃、常陸大津浜の漁民は長年にわたり外国船と交易していたとの記録があります。咸臨丸で渡米中に起こった桜田門外の変、水戸藩の尊王攘夷派による天狗党の乱は、幕臣となった友五郎にはどのように映ったでしょうか。学制発布で廃止された珠算の復活、天文観象台の充実、尋常小学校の教科書編纂などにも尽力した友五郎は、和算にも洋算にも通じた数学者であり、日本の近代化に持てる能力を余すところなく発揮したテクノクラートで

あったと再認識する正月となりました。

数々の偉業成し遂げる

広田昌司（桜川市在住）

一八六〇年、小野友五郎が乗った咸臨丸は遣米使節ポーハタン号の随伴艦として米国へ向け出港しました。彼は当時、牧野家が藩主の笠間で誕生し、幼くして算術、天文学を学び、同藩小野家の養子となり、江戸屋敷詰めとなりました。渡航はサンフランシスコの造船所、木工所、製鉄所、港湾の防御拠点の見聞にありました。蒸気軍艦の建造のための建言を作成し、製鉄所と造船所を建設、併せて江戸湾の海防計画を幕府に具申するためのものでした。小笠原父島、母島を測量し、国の領土とする調査、先住する外国人の退去を促すなど、近代日本の黎明期に、幕末の騒乱の中で、一〇年に足りない短い間にこれだけの偉業を成し遂げた人を私は他に知りません。

友五郎の功績について講演

県立歴史館で今泉副会長



茨城県近現代史研究会（市村真一会長）の総会と研究発表が昨年六月一〇日、水戸市緑町の県立歴史館の講堂で開かれました。



講演する今泉副会長

小野友五郎を伝えてゆく会の今泉副会長が講演し、友五郎の生い立ちや、近代日本の幕開けを支えたテクノクラートとしての功績、人物像を分かりやすく紹介しました。

講演は記事として、翌日の茨城新聞に掲載されました。

編集後記

○ 読書など縁がなく、はな垂れ小僧で野山を駆け回っていた子供時代、一度だけ夢中で読んでいた本がある。『十五少年漂流記』。そんな昔のことを思い出したのは最近同様に一気読み体験をしたからである。知人の勧めで吉村昭の『漂流』を読んだ。土佐の船乗りが難破し、漂着した鳥島で、アホウドリを主食に十二年余に及んだ過酷な日々が描かれていた。史実に基づく作品で、友五郎と共に咸臨丸に乗ったジョン万次郎の若き姿と重なった。（井）

会員募集中

本会の趣旨にご賛同くださいます個人、法人及び団体の皆様のご入会をお待ちしています。

下記アドレスまたはQRコードより、ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。



<https://tomogorou.com>